

授業コード	科目名	助産学概論			担当教員	島田友子
単位数(時間数)	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー 月5限、水1限	
1 (15)	1	前期	6	看研 405		
1. 授業の概要						
助産学の基礎となる知識(助産の概念、定義、意義、母子保健の動向や関連する法律・制度等)、および助産師が行うケアを支える理念を学修する。また、助産の基本概念を助産の歴史・文化及び母性保健の変遷からその意義を捉え、今後の助産のあり方や助産師の期待される役割について考察する。						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産の意義と対象について述べることができる。</li> <li>2. 助産・助産師に関連する法律を理解する。</li> <li>3. 保助看法における助産師の身分、業務、義務について理解し、述べることができる。</li> <li>4. 日本の助産の変遷、母子保健の歴史を述べることができる。</li> <li>5. 沖縄の母子保健の歴史を理解する。</li> <li>6. 助産実践の基盤が理解できる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>第1回 問題の所在の明確化(島田)</p> <p>第2回 助産の概念、助産の定義、意義・本質、助産の対象、助産学と研究、助産の将来と課題(島田)</p> <p>第3回 リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダー、性差医療、理論、求められる能力(島田)</p> <p>第4回 日本の助産の変遷(島田)</p> <p>第5回 母子保健の動向と諸制度、関連する法律 ①(島田) 医療法、保助看法、医師法、母子保健法、児童福祉法、地域保健法、戸籍法、 刑法、民法、労働法など</p> <p>第6回 助産学を支える理論:ルービン、アタッチメント理論など(島田)</p> <p>第7回 日本および外国の助産師教育 助産の歴史の変遷 助産師教育の変遷文献、雑誌検討(島田)</p> <p>第8回 まとめ、講義全体の振り返り 助産師の役割と責任(島田)</p>						
4. テキスト・参考文献						
<p>助産学講座1 基礎助産学1 助産学概論 我部山キヨ子・武谷雄二編集 医学書院 2016</p> <p>この他の参考図書は、随時紹介する。</p>						
5. 準備学習						
コースガイダンス時に資料を配布するので、確認をしておくこと。						
6. 成績評価の方法						
・レポート課題(40%) 筆記試験(60%) 合計100%						
7. 履修の条件 : 特になし						
8. その他 : 特になし						

授業コード	科目名	助産ケアと倫理			担当教員	小西 清美、金城 隆展
	科目名(英)				E-mail	konishi@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1		前期	6	研究室7		
1. 授業の概要						
この科目では、助産倫理の原則等について学習し、アドボカシー、責務と責任、協力、ケアリングといった実践上の倫理的概念・倫理的行動の基準、倫理規定とその意義と活用、倫理的感受性、倫理的意思決定、倫理的意思決定と価値観との関係について理解を深める。特に、近年、倫理学の分野において提唱されているケアの倫理を念頭に置いて、他者をケアするとはどういうことなのか、そもそもケアとは何かを問い直し、医療や助産の臨床場面でのケアのあり方について、事例を通して考えていく。						
2. 到達目標						
1) 助産師の責任と役割が理解し、職業意識・職業倫理を高めることができる。 2) 倫理的問題・倫理的ジレンマを理解ができる。 3) 周産期における倫理的問題の倫理的アプローチが理解できる。 4) ケアの倫理およびケアリングの倫理が理解できる。 5) 女性の倫理的意思決定プロセスと支援が理解できる。 5) 倫理的行動の基準、倫理規定とその意義を理解し、活用ができる。 6) 倫理的問題に関する感受性を高めることができる。						
3. 授業計画と内容						
1) 5/21(火) 2限: ガイダンス (小西) 2) 5/28 (火) 2限: 助産師の責任と倫理 (小西) 3) 6/4 (火) 2限: 倫理的課題—倫理的ジレンマと道徳的苦悩— (小西) 4) 6/11 (火) 2限: 倫理のアプローチ: 生命倫理とケアリングの倫理 (小西) 5) 7/1 (月) 1限: ナラティブと倫理 (1) (金城) 6) 7/1 (月) 2限: ナラティブと倫理 (2) (金城) 7) 7/2 (火) 2限: 女性の倫理的意思決定支援 (小西) 8) 7/9 (木) 2限: 倫理的感受性の強化—臨床における助産倫理の実際 (小西)						
4. テキスト・参考文献						
テキスト: 助産学講座1 基礎助産学1 助産学概論 我部山キヨ子・武谷雄二編集 医学書院 2016 参考文献: 小西恵美子編: 看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ、南江堂 参考図書については、随時紹介する。						
5. 準備学習						
・事前課題を提示しますので、課題を学習してから授業に望んでください。						
6. 成績評価の方法						
1) レポート課題(80%) 2) クラスへの参加度(20%) 合計 100%						
7. 履修の条件						
・特になし						
8. その他						
・オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。						

授業コード	科目名	生殖医学			担当教員	砂川昌範、知念安紹
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	研 407		
1. 授業の概要						
<p>この科目では1) 生殖のメカニズムと生殖に関連する疾患, 2) 生殖補助医療, 3) 遺伝と遺伝性疾患: 出生前診断・胎児治療・遺伝医学など, 助産活動に必要な生殖に関連する基礎的知識ならびに高度な先進医療に関する知識を深める。安全かつ快適な妊娠・出産を提供でき、高度先進医療にも対応できる基礎的能力を修得する。生殖医学と倫理的・社会的問題を概観し、今日の生殖医療の現状と課題(不妊治療や、出生前診断、生殖補助医療等)と、それを受ける対象に対する心理・社会的考察を通して助産師の役割について理解を深める。</p>						
2. 到達目標						
<p>1) ヒトの生殖、発生、先天異常とその原因について理解する。  2) 遺伝子治療の最近の進歩と臨床応用について理解する。  3) 生殖補助医療の動向を理解する。  4) 生殖補助医療における倫理的問題に気づくことができる。  5) 生殖補助医療を受ける対象に対する心理・社会的考察を通して助産師の役割について述べるができる。</p>						
3. 授業計画と内容						
<p>第1回 生殖のメカニズム (砂川昌範)  第2,3回 遺伝と遺伝性疾患 染色体異常と出生前診断 (砂川昌範)  第4回 高度先進医療 生殖補助医療(人工授精, 体外受精) (砂川昌範)    第5回 出生前診断 (知念安紹)  第6回 遺伝カウンセリング (知念安紹)  第7回 生殖補助医療 (知念安紹)  第8回 高度先進医療 (知念安紹)</p>						
4. テキスト・参考文献						
<p>仁志田博司 (2015) 「出生と死をめぐる生命倫理-連続と不連続の思想」(医学書院)  浅井美智子・柘植あづみ編 (2004) 「つくられる生殖神話」(サイエンスハウス他) この他の参考図書は、随時紹介する。</p>						
5. 準備学習						
十分な予習と復習を行うこと。						
6. 成績評価の方法						
・レポート(40点) 筆記試験(60点) 合計100点						
7. 履修の条件						
特になし						
8. その他						
特になし						

授業コード	科目名	沖縄のケアリング文化と女性			担当教員	島田友子、大城凌子、 長嶺絵里子、永田美和子
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー 月・火 16:30-17:30	
1	1	前期	6	研 405、看研 13 3 研 1-4、研 610		
1. 授業の概要						
<p>この科目では、ケアリングの概念を理論的に理解し、ケアリングの本質や援助の特質について学修する。沖縄は常に何らかの権力の支配下に置かれながら、文化や社会を形成してきた歴史的経験を持つ場所である。島嶼地域として歴史の中でいわゆる他者化されてきた沖縄は、沖縄という独特な風土と共同体によって豊かな個性(ケアリング文化)を育てている。ケアリングは、他者に関心を向けて応答し合う関係及び自分自身に関心を向けて他者と応答し合う関係を築いてゆくことであり、沖縄のケアリング文化には、ややもすると希薄になりがちな他者との関係性を再構築する糸口を見いだせるのではないかと期待できる。沖縄の文化・歴史を概観しながら、沖縄のケアリング文化に根ざす女性・家族の力を知り今後のケアの方向を考える。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケアリングの概念について説明できる。</li> <li>2. 女性に関連する沖縄の文化・慣習、生活を理解する。</li> <li>3. 沖縄の歴史的背景とケアリング文化について理解する。</li> <li>4. 歴史に翻弄されながらも沖縄の共同体を存続させて強く生きる、沖縄の女性について理解を深める。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>第 1 週 ケアリングとは ガイダンス (島田)  第 2 週 沖縄の歴史と女性の生き方 (長嶺)  第 3 週 沖縄の子育て ～<sup>ぬちどうたから</sup>命宝～ (長嶺)  第 4 週 戦後の沖縄 ～変わりゆくもの、変わらないもの～ (大城)  第 5 週 地域活性化の取り組みとケアリング (大城)  第 6 週 保育の現状と課題と女性の生き方、働き方 (比嘉)  第 7 週 沖縄の文化とケアリング (永田)  第 8 週 名護の母子・女性の生き方、まとめ (岸本・島田)</p>						
4. テキスト・参考文献						
<p>特定の教科書は使用しない。毎授業、レジュメ及び関連資料及び関連文献を配布。  講義内容に適した参考文献を随時講義の中で紹介する。</p>						
5. 準備学習						
<p>沖縄の文化や歴史について、日頃から関心をもって新聞・雑誌などを読んでおくこと。</p>						
6. 成績評価の方法						
<p>① 活動状況 (授業へのコミットメント、問題発見、プレゼンテーションなど) 30 点  ② 課題レポート 70 点 合計 100 点</p>						
7. 履修の条件						
特になし						
8. その他：オムニバス方式での授業である。授業日の詳細は授業時に説明する。						

授業コード	科目名	周産期医学			担当教員	牧野康男、正本仁、 金城忠嗣、新田迅
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	前期	6	非常勤講師控室		
1. 授業の概要						
<p>助産診断・技術を実践する上で必要となる周産期の病態生理について学習する。</p> <p>ハイリスク妊娠・分娩・産褥および周産期の異常、胎児異常の定義、治療、産科手術、産科救急について学習する。また、周産期における医学診断の実際として超音波画像診断、胎児心拍陣痛図を学習する。</p> <p>ウイメンズヘルス支援の基本となる生殖に関する形態と機能、女性特有の疾患、性感染症などの知識を修得する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常妊娠・分娩・産褥の生理を述べることができる。</li> <li>2. 正常妊娠・分娩・産褥の診察法を理解する。</li> <li>3. 妊娠、分娩、産褥各期の正常からの逸脱の識別に必要な基礎的と検査法を理解する。</li> <li>4. 産科手術・救急対応について理解する。</li> <li>5. 女性のライフサイクル各期の主要疾患を理解する。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>第1回 妊娠成立の機序 妊娠診断 (牧野) 妊娠成立のメカニズム、妊娠とhCG(ヒト絨毛性ゴナドトロピン)</p> <p>第2回 超音波断層法 妊娠初期の超音波断層法、妊娠中期から後期の超音波断層法 (牧野)</p> <p>第3回 妊娠中の母体の変化 (牧野) 胎児付属物の構造と機能(胎盤、臍帯、卵膜、羊水)</p> <p>第4回 母体の生理学的変化 (牧野) (循環器、呼吸器、血液、消化器、腎泌尿器、代謝・内分泌)</p> <p>第5-6回 妊娠初期にみられる異常 (牧野) 妊娠初期に見られる疾患の病態、診断、治療、流産、子宮外妊娠、胞状奇胎</p> <p>第7回 胎児胎盤系機能検査 胎児心拍陣痛図総論 (牧野) 胎児心拍陣痛図の判読演習、基線細変動、一過性徐脈など</p> <p>第8回 異常妊娠 妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、切迫早産、PROM(前期破水) (牧野)</p> <p>第9回 妊娠合併症: TORCH 症候群、DM,甲状腺機能、血液疾患、自己免疫疾患など (金城)</p> <p>第10-11回 正常分娩 分娩の経過 解剖・生異常理 (新田) 分娩の異常 CPD 胎位・胎勢・回旋異常</p> <p>第12-13回 産科手術(会陰切開縫合術、骨盤位娩出術、吸引娩出術、鉗子娩出術 (正本) クリステレル胎児圧出術、帝王切開術) 救急処置の実際 分娩誘発・促進法</p> <p>第14-15回 産褥期の異常と偶発疾患の診断と治療 (金城) ・身体的異常(産褥期感染症、血栓・塞栓症、産褥後遺症)</p>						
4. テキスト・参考文献						
<p>荒木勤「最新産科学 正常編 第22版」(文光堂、2008年)</p> <p>我部山キヨ子他編「母子の基礎科学」第5版(助産学講座2)(医学書院、2016年)</p>						

我部山キヨ子他編「助産診断・技術学Ⅱ妊娠期[1]」第5版（助産学講座6）（医学書院、2016年）

我部山キヨ子他編「助産診断・技術学Ⅱ分娩期・産褥期[2]」第5版（助産学講座7）（医学書院、2016年）

可世木久幸監「助産師国家試験対策スキルアップ」（海馬書房、2015年）

堀内成子編「助産診断・技術学Ⅰ」（助産学講座5）第5版（医学書院、2016年）

5. 準備学習

十分な予習と復習を行うこと。

6. 成績評価の方法

筆記試験（100%） 合計100点

7. 履修の条件

特になし

8. その他

オムニバス方式での授業であり、講義日は変動する可能性がある。授業日の詳細は授業時に説明する。

授業コード	科目名	助産管理学			担当教員	島田友子、小嶋理恵子、桑江喜代子
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	前期	6	研 405	月 16:30-17:30 水1限	
1. 授業の概要						
<p>助産師は安全で快適に女性、子どもとその家族が妊娠・出産・育児期を過ごせるように助産ケアを提供する役割がある。本科目では、助産業務の管理および助産所の運営に必要な管理の基本とマネジメントを理解し、助産師業務を評価・調整する基礎的な知識を修得する。助産所運営ガイドライン、医療安全対策の実際を理解し、チーム医療や施設と地域連携における助産師の役割を考察する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産業務管理の基本とマネジメントを理解する。</li> <li>2. 助産業務遂行に関する法令について理解する。</li> <li>3. 病院施設における助産業務管理の実際について理解する。</li> <li>4. 安全管理対策（リスクマネジメント・感染対策・防災）を理解する。</li> <li>5. 助産所における助産業務管理について理解する。</li> <li>6. 助産所の特徴や経営の実際について理解する。</li> <li>7. 助産所と病院における助産業務管理の方法について述べることができる。</li> <li>8. 周産期医療システムの実際について理解し、チーム医療や施設と地域の連携について考察することができる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>第1回 オリエンテーション、助産管理学とは 助産管理とマネジメント 活用できる理論</p> <p>第2回 助産所とは、助産業務の概念</p> <p>第3回 助産所経営の実際（人・もの・金・情報）</p> <p>第4回 助産業務ガイドライン 関連法規と助産師の義務・責任</p> <p>第5回 関連法規と助産師の義務・責任 周産期の医療事故とリスクマネージメント 産科における医療事故 法的責務</p> <p>第6回 病院における助産業務管理（周産期管理システムと助産業務管理） 新生児集中治療室 母体搬送システム オープンシステムなど</p> <p>第7回 病院における助産業務管理（人材育成、労務管理、外来管理、院内助産システムについて）</p> <p>第8回 病院における助産業務管理（リスクマネジメントの基本、産科における医療事故、法的責務 感染対策・安全管理など）</p> <p>第9回 病院における助産業務管理（地域との連携、書類管理、財務管理、業務の質管理など）</p> <p>第10回 災害時の対応と助産ケア</p> <p>第11回 助産所とは</p> <p>第12回 助産所における業務管理・運営（助産業務とガイドラインに基づく運営管理、医療安全）</p> <p>第13回 助産所における経営（助産所の特徴や経営の実際、開業に関する法規、地域連携など）</p> <p>第14-15回 助産と経営（沖縄県未来センターの開設と実際、助産所の環境・設備・備品など）</p>						

ディスカッション、まとめ

4. テキスト・参考文献

『助産学講座10 助産管理』我部山キヨ子他編（医学書院）2016年

『助産業務ガイドライン』（日本助産師会）2014年、『助産業務要覧第2版基礎編・実践編』（日本看護協会出版会）2012年

『助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全』成田伸編（日本看護協会出版会）2016年  
この他の参考図書は、随時紹介する。

5. 準備学習

予習をして授業に臨むこと。

6. 成績評価の方法

・筆記試験（70点） 演習・ディスカッション貢献度（30点） 合計100点

7. 履修の条件 : 特になし

8. その他 : 特になし



授業コード	科目名	新生児・乳児学			担当教員	木里頼子
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	非常勤講師控室		
1. 授業の概要						
<p>新生児のケアを適応生理に基づいて実施できる基礎的能力を修得する。子宮外環境への生理的適応変化を知り、出生後の栄養と育児などを含めた基本的ケアの提供方法を選択、判断できる知識を修得する。また、ハイリスク新生児に対して、家族への支援方法を助産師の立場から検討できる知識を修得する。乳幼児期が人間の発達基礎を培う時期であることを知り、乳児期の発育・発達の特徴に関する知識を修得する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新生児の適応生理について理解する。</li> <li>2. 新生児のフィジカルアセスメントを理解する。</li> <li>3. 新生児の成熟度と適応過程について述べるができる。</li> <li>4. 低出生体重児の生理的特徴について理解する。</li> <li>5. 低出生体重児に特有な病態・治療について理解する。</li> <li>6. 乳児の身体的発育と精神的発達の相互の関連について理解する。</li> <li>7. 新生児の胎外生活への移行期や移行後の助産診断やケアにつなげることができる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>第1、2回 新生児の適応生理 (担当：木里頼子)</p> <p>新生児の特徴、生理的適応変化 呼吸器系の生理と診療  内分泌系・代謝系の異常 体温調節と保温  循環器系の基礎と診療 フィジカルアセスメント</p> <p>第3、4回 新生児の病態と疾患 (担当：木里頼子)</p> <p>黄疸の基礎と臨床、血液系の病態と診療、検査  感染症, 新生児外科疾患</p> <p>第5、6回 ハイリスク新生児の概念 (担当：木里頼子)</p> <p>早産・低出生体重児の急性期管理、慢性期管理  ハイリスク児の主要な病態と診療</p> <p>第7、8回 乳幼児の発達と健康診査 (担当：木里頼子)</p> <p>身体的発育と精神的発達、こころの発達、運動機能発達、  健康診査について</p>						
4. テキスト・参考文献						
仁志田博司：新生児学入門(第4版)，医学書院 子どもの発達と保育（教育図書） 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ 新生児期・乳幼児期（医学書院）2018年						
5. 準備学習						
十分な予習と復習を行うこと。						
6. 成績評価の方法						
筆記試験（100%） 合計100点						
7. 履修の条件						
特になし						
8. その他						
特になし						